



ぶどうと花 水彩会員 高松秀人

## 第96回道展を終えて



事務局長 澤田 範明

道展の展覧会活動は昨年2021年、コロナ禍による1年間の延期の後、再開—再始動しました。

再開後の展覧会である「第95回記念道展企画会員会友展—スモールコスモス—」、「第95回記念道展」、「第13回道展 U21」は、いずれも盛況で充実した展覧会として記念すべきものとなりました。

創立100周年へのアプローチとしての「第96回道展」は、重要な通過点であり、今後の道展を占う試金石としての意味を持っていると思います。

昨年の「第95回記念道展」は2年間のコロナ禍という暗闇と戦った成果としての「気概と自信を伴う輝き」を示した展覧会とって過言ではないと思います。ご観覧の皆様からは、“コロナ禍を生き抜いた作家の展覧会”としての発露を感じたという声を多く聞きました。

「第96回道展」のコンセプトは、全ての作品の「個性」や「優れた感性」を“如何に発揮させるか”という命題のもと、全ての壁面の充実と展示効果を追求することでした。今までとは異なる組み合わせの展示作品が、各壁面にもたらした効果は絶大だったと自認しています。皆様のご感想をお聞きしたいところです。

実際にご覧になっていかがお感じになられたでしょうか。残念ながら、この現場感は、図録には収録することはできません。実際の市民ギャラリーの展示全体や各壁面をご覧

にならないとお感じになれないものです。今一度、ご記憶をたどっていただくと幸いです。また、担当者の並々ならぬ、時間と労力を惜しまぬ取り組みと共に道展に対する熱い想い「道展愛」が根底に流れていることを付け加えておきます。

さて、「第96回道展」の最高賞である「北海道美術協会賞」に輝いたのは、油彩部門河川真由美さんの「こころをあらう」です。

厳正な審査の結果、「豊かな色彩と構造的で安定した構成において、具象的な形体と抽象的な表現が調和しながら、リズム感を伴った作品に昇華されている」と最高賞にふさわしいと評価されました。

その他の受賞作品はそれぞれの部門において、作品の質の高さと優れた表現が認められた結果として決定されました。なお今回より各部門における最上位の賞として部門優秀賞が設けられました。受賞者の皆様、本当におめでとうございます。

また、授賞作品、受賞作家も含め、会友会員に推挙された皆さんは、創立100周年を迎えようとしている道展にとって母体となってほしい、かけがえのない作品であり、作家であります。願わくは、皆さんと現在の会員会友が一体となって「道展愛」に導かれ、創立100周年を迎えたいものと思っています。



北海道美術協会賞 河川真由美さん



来場者で賑わう会場



2年ぶりに行われたギャラリーツアー



授賞式



昨年に続き、コロナ禍での開催となる第96回道展。制作する側、鑑賞する側、双方に少しずつではあるが落ち着きを取り戻しつつあり、訪れた会場では対策を取りながらも賑やかな様子がうかがえた。今回は応募総数が337点、うち入選が251点、会員・会友の作品とあわせ、全500点の展示となっている。

同会によると、10代から80代の幅広い年齢層の出品者となっており、熟練の技術を生かした作品も多数あり、加えて若い感性が感じられる作品も多いという。

それでは、受賞作のうち印象に残った作品をあげていきたい。まず、最高賞である協会賞を受賞した川口真由美の油彩画「こころをあらう」。一見すると抽象作品であるが、タイトルどおりの具象的なイメージも湧いてくる。ポップなそれでいて柔らかさも感じる色彩、多彩なマチエールや画面を走る細やかな線描も相まって、さまざまな魅力を持った作品である。

水彩部門優秀賞は、盛岩唯史「還る時を待つ」。森深くに放置されたバスの朽ち果てていく車体や包み隠すように茂る植物を、抑えた色彩、濃密な点描で描き、確かな質感を表現している。日本画部門優秀賞は、牧野香里「Turkey's Club No.2」。去年の最高賞に続いての受賞である。同時に新会友となった。重なり合う形態、色調、質感など、作者の制作意欲がうかがえる力作である。彫刻部門優秀賞は、こちらも新会友となった菱野亮子「算法」。上部の曲線的で柔らかな白と、下部の直線的でシャープな黒。形態、色彩、素材、それぞれが対照的な組み合わせが面白く、また全体としてリズムカルな印象を与えている。工芸部門最高賞は、やはり新会友となった宮前和希「時を越えて」。大振りの壺の持つどっしりとした形態、金属的ともいえるような鈍く輝く釉薬の色が、タイトルどおりの印象を与える作品である。

佳作賞は21点。日本画からは、中山果林「ゆうかい」。銀と青の色彩が美しい。油彩では、鈴木秋弘「時をつなぐ」。機械的なモチーフを繊細に描いて、タイトルにもあるような、新しさと古さが同居したような印象を与えることに成功している。太子和奏「風と踊る」は、色とりどりのビニール傘を通した光が地面に映し出す色彩が印象的であり、全体に明るい色調の軽やかな作品である。高橋真理子「春木立 あおく」も、木立のなか佇む女性を包み込む明るい光が爽やかな印象を残す。橋詰博「紡ぐ」は階段に腰を下ろす青年をリアルに、確かな存在感で描いており、好感が持てる作品。星奈桜「成長」は、絵の具の盛り上がり、文字通り額からはみ出した画面から、若さの持つエネルギーが存分に伝わってくる。水彩では、河合幹夫「湿原」。夕日に映える湿原の美しさ、光の諧調を水彩の特徴を生かして描いていた。同様に、斉藤誠「水源地への路」も木漏れ日に包まれた小道に佇む子どもを、水彩の特徴を生かし瑞々しく描いている。数は多くないものの、水彩画に佳作が目立つのは、今田敬一以来の会の伝統なのだろうか。工芸では、佐藤友保「祈りの人」。老シスターの持つ清楚な雰囲気や木の質感を生かして表現した佳作であった。

新人賞は11点。日本画では、森田早紀「I」。花のような、においたつ色彩と余白が醸し出す画面が美しい。油彩では、川井彩奈「未知」の、顔に伝わる透明な液体の強い粘性を持った表現が印象に残った。新林花菜「俺に触れてくれ」からは、サイコホラーを連想させるような、映像的な要素を感じさせる。塚本愛菜「忘却しても少しずつ膨張する」は、白を基調として、反射、屈折した建物から見た街景を描く。タイトルとともに、気になった作品である。水彩では、小笠原愛「轟」も光を受けて輝く滝の様子を水彩の特性を生かし瑞々しく描いていた。版画は、遠藤真南「秋波」の歪みダブる人物の顔を描いた、モノクロにピンクを載せたポップでフォトジェニックな表現が目についた。彫刻では、澁谷希李「舞昇」。確かな表現力で清楚な女性像を作りあげた。

会友賞は14点。油彩では、和泉よう子「刻の記憶「道標'22」」。網をコラージュした抽象作品で、表現に堅実さを感じる。清水千賀子「セキレイ」は、丁寧に描かれた水辺の様子が持つリアルさ、清新さが好印象を残す。竹村恭子「冬日」は、スーパーリアル風に描かれたさまざまなモチーフの色彩の多様さが印象的。浜中マサノリ「街に落ちる影」は、ジオラマのような無人の街がざらりとした絵肌で描かれており、不思議な印象を感じさせる作品。星野美知枝「白日の水」は白を基調とした静物。静けさが漂うなか、描きこまれた海の画の中画が効果的。船岳紘行「アポロンの記憶」は、強い色彩をもって、原始的、南国的であり、どこか神話的な物語を感じさせるエネルギーな世界を力強く描いている。水彩では、土井上初枝「幾星霜」。茶を基調とした廃屋と画面左に描かれた白の建築物の対比が面白い。彫刻では、福江悦子「心友」。材の持つ感触や形態を生かし、仏像のような神秘的な佇まいと現代的な要素が融合したような作品となっている。

新会員は10名。油彩では、鈴木隆文「ブライツ」が、近未来的風景といおうか、アニメ的な世界を描き出していた。そこを佇む少女もやはりアニメ的表現で描かれ、サブカルチャー的要素が面白い。中山龍雄「小樽港展望」は、シンプルで明快な描写が心地よい。よくみると、画中に全く同じ画が描かれており、だまし絵的な要素も。水尻悦子「陽春」、村上英一「北の浜 I」のような北海道的な漁村風景は落ち着きを与えてくれる。工芸の高田由美子「風化する記憶'22」は、アンモナイトを象った焼き物。渦の真ん中の作った釉だまりが美しい。

新会友は7名。油彩では、津田光太郎「自爆装置と辞世の句」が、アニメ、ゲーム、書き文字、時代劇、任侠もの、SFと新旧のサブカル的表現を駆使しながら、独自の世界を追求している。三浦なおみ「会えないけれど…」は、コロナ禍のなか、手紙とメール（訳したら同じではあるが）という新旧の通信手段をモチーフにしたタイムリーな作品。版画では、上村壘「Horizon」。抽象表現でありながら、タイトルのとおり、地平線を感じさせるパノラミックな作品となっている。

受賞作だけを見ても、メディア、表現方法ともにヴァリエティに富んでおり、現代的なメディアを意識したテーマが多く見受けられる。伝統的に、幅広い表現を受け入れてきた道展の特徴といえるのではないだろうか。



佳作賞 中山 果林  
ゆうかい



新人賞 石川 絢子  
季の記憶に



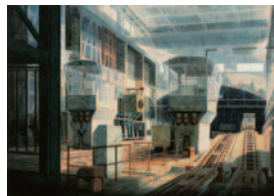
新人賞 森田 早紀  
アイ



協会賞 河口真由美  
ころをあらう



佳作賞 大石 春夫  
秋のおとずれ



佳作賞 鈴木 秋弘  
時をつなぐ



佳作賞 長内 紀子  
LOVE (深海へ)



佳作賞 中村富志男  
麓郷春耕

## 受賞者の ことば

### ●部門優秀賞・新会友

日本画 牧野 香里

此度は、日本画部門優秀賞の受賞、新会友へ推挙して頂くこととなり、大変恐縮しております。会場で自作を見る度に、まだ足りない事ばかりで恥ずかしい思いをしております。皆様にお見せ得るに足る作品を制作できるよう、今後も精進して参りたいと思います。

### ●佳作賞 日本画 中山 果林

この度は佳作賞を授与していただき、ありがとうございます。この作品は、「融解」「誘拐」というテーマで、光と溶け合い、誘われるような表現を心掛けて制作しました。未だ改善点は多くありますが、この度の授与を筆に精進したいと思います。

### ●新人賞 日本画 石川 絢子

霧多布湿原の可憐な花々に会いに、両親と何度も訪れていた。カンゾウ、ハナシノブは一日花。命の透き間を作らぬよう、画面一杯に描いた。幸せだった刻の記憶を。絵は多くの方々に観て戴けるのが幸せ。この度の道展「新人賞」受賞は本当に嬉しいです。

### ●新人賞 日本画 森田 早紀

大学卒業後、仕事と制作を両立しながら生活し始めて数年が経ちました。学生の頃から出品してきた道展で、始めて賞を頂くことができ今は純粋に嬉しい気持ちが自分の中にあります。己の描く絵に日々悩み、思考と試行を繰り返してきましたが今年の絵は一つ階段を上ることができたかと思っております。

### ●協会賞 油彩 河口真由美

全く予想しておらず、協会賞受賞の知らせには驚き、しばらく実感が持てませんでした。初出品から年月が経ちましたが、これまでの積み重ねてきたことが良い結果に繋がりが大変嬉しく思います。これからも身近なものに興味関心と疑問を持って描いていきたいです。

### ●佳作賞・新会友

油彩 岩間 素子

佳作賞、会友推挙のお知らせに、驚きと嬉しさで飛び上がらんばかりの気持ちになりました。15年間頑張ってきた本当に良かったです。有難うございました。この賞を励みに絵を描き続けていきたいと思っております。支えて下さった先生方、家族、友人に感謝します。

### ●佳作賞 油彩 大石 春夫

佳作賞の受賞は身に余る光栄です。身の回りの何気ない景色、日差しや湿度、風や湿度、空間とか時間の流れを表現できるようになりたいなあって思っています。

### ●佳作賞 油彩 長内 紀子

此の度、第96回道展において佳作賞

を授賞下さいました事に心より感謝申し上げます。昨年の受賞からの佳作賞連続受賞は正に望外の結果です。道展の輝かしい伝統と歴史に想いを馳せますと身が引き締まる思いが致します。今後とも感謝と喜びを持って真摯に制作して参りたいと思っております。有難うございました。

### ●佳作賞 油彩 鈴木 秋弘

風景や史跡めぐりをして取材中に「これだ!」というものに遭遇したときは描きたいという衝動がわいてきます。そんな時は時間を忘れて絵に没頭します。絵が仕上がるまでには山あり谷ありますが、心身のバランスを保ち常に健康であることが絵を描く秘訣と思っています。

### ●佳作賞 油彩 中村富志男

佳作賞をいただきありがとうございます。取材地をスケッチやカメラに収めて作品制作し、今後も地元十勝や最近では道内取材旅行を基に風景画に描き残すことを一つの目標としています。今後も現場の情景が感じられる作品を目指し、描き続けていこうと思っております。

### ●佳作賞 油彩 加藤 隆

この度は佳作賞をいただき誠にありがとうございます。学生時代に始まった油彩制作でしたが、観る側から制作を再開できたのは職を退いた後でした。この受賞を糧に、これからも制作への熱量を失わず自分なりの表現を追い求めていきたいと思っております。

### ●佳作賞 油彩 星 奈桜

わたしの作品が多くの人の目に留まり、多くの人の印象に残ったというこ

佳作賞  
グリーン  
アイランド  
4  
加藤 隆



佳作賞 星 奈桜  
成長

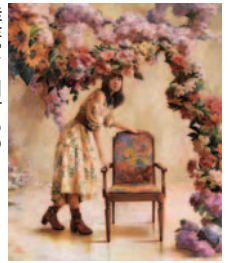
銀賞  
佳作賞  
砂山留美子



佳作賞  
丸瀬布の森  
松木 敦子



華賞  
佳作賞  
川村あゆり



ある日  
佳作賞  
佐藤希代巳



佳作賞  
風と踊る  
太子 和奏



春木立  
佳作賞  
あおく  
高橋真理子



紡ぐ  
佳作賞  
橋詰 博



佳作賞 松本 七海  
風

とに嬉しい気持ちでいっぱいです。作品をみて、どう思ったか、何を考えたか、その気持ちを大事にしてほしいと切に思います。

### ●佳作賞 油彩 砂山留美子

二十年前絵を学んでいた頃、市民展に挑戦しようと描いた風景画を抽象画だと言ってくれた人(現道展会員)がいました。風景画でも抽象表現が出来るのか? 抽象画に憧れていた私は一層心をこめて描きました。そして今心象画をめざす自分がある。これからも自分の感性を信じて努力し続けたいと思っています。

### ●佳作賞 油彩 松木 敦子

公募展に絵を出品するようになり、私の生活は大きく変化しました。まず、一日の計画を立てるようになりました。一番の変化は、昼寝を止めたことです。そして、絵になる素材を集めることが楽しみになりました。週末には、カメラを携えて遠出することもあります。毎日がとても有意義です。

### ●佳作賞 油彩 川村あゆり

この度は私の作品を佳作賞に選出して頂き誠にありがとうございます。今回の作品は、未熟であるが故の苦労や儂さや可能性の広がりテーマにし制作しました。花の配置にかなりの時間苦戦しましたが、良い経験になりました。今後も人物をメインに制作を続けていきたいと思っています。

### ●佳作賞 油彩 佐藤希代巳

日本で新型コロナウイルスの感染が始まった令和2年以降、母、叔父、姉、愛猫との永別を次々に経験しました。

光陰矢の如し、否応なしの別れはまたすぐにやってくることでしょう。せめて、娘と老猫との平穏な日常の「ある日」をキャンバスにとどめたいという思いで描きました。

### ●佳作賞 油彩 太子 和奏

昨年に引き続き佳作賞を頂けたこと、本当に光栄です。今回は動きのある構図に挑戦しました。制作中様々な気付きがあり、描いてよかったと心から思える作品です。私は今年から大学の油彩画研究室に所属し、日々刺激的な環境で制作しています。今後とも楽しい気持ちで絵を描いていきたいです。

### ●佳作賞 油彩 高橋真理子

道展出品作は、「その年の私」の内面を映す挿絵のように感じています。冬を越え新緑が芽生えて、光と影が行き交う防風林。この道はどこへ続くのか。そこにまっすぐな眼差しの女性を置いた今年、初めて佳作賞をいただきました。自分に出会いながら、また描き続けようと思います。

### ●佳作賞 油彩 橋詰 博

定年後、30数年ぶりに描き始めました。20代の頃の絵具を詰めたカビ臭い段ボールを開け絵の具のチューブを取り出す。フタは硬かったものの絵の具それ自体は柔軟で、鮮やかさを保っている事に驚きました。今回の受賞を励みとして今後も楽しんで描いていきたいと思っています。

### ●新人賞 油彩 新林 花菜

絵は、どれほど描き進めても平面です。絵の中に入ることはできません。音楽のように音の波で観客と触れ合う

こともできず、視覚情報しか与えられません。だからこそ見てほしい、触れてほしいという気持ちを込めました。絵画を見捨てないでくれという強い気持ちでもあります。

### ●新人賞 油彩 川井 彩奈

この度は新人賞にお選びいただきまして有難うございます。今回の作品では、新しいものが生まれ続ける“今”を生きる中でのこれからの対する不安な気持ちがドロドロとした液体となって自身に纏わり付き、身動きがとれない状態を表現しました。私自身まだまだ未熟ではありますが、これからもより多くの美に触れ、様々な人の心を動かすことのできるような作品を作っていきたいです。

### ●部門優秀賞 水彩 盛岩 唯史

今回、水彩部門優秀賞という賞を頂き大変光栄に感じています。自分の作品と向き合うたびに、自分の人生について振り返りながら、支えてくれる人達に感謝の気持ちでいっぱいになります。自分が絵を描ける状況にあるという幸せを感じながら、これからも頑張ります。

### ●佳作賞 水彩 井本ますえ

退職、還暦を機に始めた絵画教室、全道展、日本水彩、水彩連盟、長い月日が去りました。道展は平成12年初出品で入選でしたが後は全て落選。2回目平成22年、その後も落選。でも描くことが身に付いたことと素晴らしい先生方、友達に支えられ感無量です。テーマは老いた木の持つ生命力、感動、人生観をも未熟ながら描き込む事が好き



新人賞 新林 花葉  
俺に触れてくれ



新人賞 川井 彩奈  
未知



新人賞 塚本 愛葉  
忘却しても少しづつ膨張する。



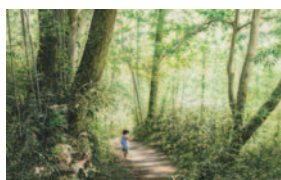
水彩部門優秀賞 盛岩 唯史  
還る時を待つ



佳作賞 井本ますえ  
樹霊2



佳作賞 河合 幹夫  
湿原



佳作賞 齋藤 誠  
水源池への路



新人賞 小笠原 愛  
轟



新人賞 梅津 俊雄  
初冬の大きな樹



新人賞 遠藤 真南  
秋波

です。残り少ない人生を天国の夫のおみやげに頑張りたいのです。ありがとうございました。

●佳作賞 水彩 河合 幹夫  
入選7回で佳作賞、皆様方の応援ありがとうございます。いつも出品点数は2点ですが、ある先輩のすすめで3点出品でした。今後の目標はパステル調の明るく心情的な絵にしたい。又、色々新しい事に取り組みたいと思っています。

●佳作賞 水彩 齋藤 誠  
身近な自然や植物を描いておりますが、植物の表情表現は難しく技量の乏しさを実感します。作品は、時代遅れで欠点だらけと自覚しておりましたが、この度の受賞は、「あばたもえくぼ」という評価と励ましを頂いたものと喜んでおります

●新人賞 水彩 小笠原 愛  
この度は、新人賞という光栄な賞を頂き大変嬉しく思います。今回題材にしたのは洞爺湖唯一の流出口である「壮瞥滝」で、初めて訪れた際に目にした水量と轟音、陽光に透ける葉の煌めき…その迫力と美しさが忘れられず、是非表現してみたいと思い制作しました。

●新人賞 水彩 梅津 俊雄  
退職後、何か趣味をと考え、入学した老壮大学で中学以来の水彩画を習い、4年後、近所の山道を散歩し見つけた大きな樹を描くことに挑戦。何度も先生達のアドバイスを受けた作品を道展に出品し、72歳で新人賞を頂き、未だに信じられない思いです。

●新人賞 版画 遠藤 真南  
版画を大学で学び始めてはや5年。目標としていた道展の新人賞を頂くことができとても嬉しく思います。

作品を作るときは顔を伸ばしてみたりちぎってみたり自分の顔と睨めっこしながら内面を引っ張り出そうとしています。これからも楽しみながら作品作りに取り組みたいです。

●部門優秀賞・新会友 彫刻 菱野 亮子  
作品を作る際に、頭の中で試行錯誤しながら思考を組み立て、実作業では手順を踏み作り進めていく様が数式を解くかのようにあり、また、言葉の響が「三方(さんぼう)」を向いている本作のカタチと一致してことに面白さを感じ、今回の「算法」というタイトルをつけました。

●新人賞 彫刻 澁谷 希李  
この度は新人賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。暖かくご指導いただいた先生方はもちろん、周囲の皆様のご協力があってこそこの賞だと思っております。社会に出たら今よりずっと自由な時間は減ってしまうとは思いますが、そういった方々への感謝を忘れず制作を続けていきたいです。

●新人賞 彫刻 小林 礼奈  
この度は、新人賞を受賞させていただき誠にありがとうございます。今回の作品は、自分自身の迷う心がテーマです。形の模索に時間をかけ、やっとの思いで納得のいく形にたどり着くことが出来ました。これからも味わい深い形を探求し、楽しく制作を続けてい

きたいです。

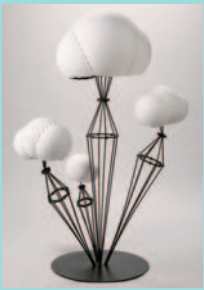
●部門優秀賞・新会友 工芸 宮前 和希  
粘土こねからいくつかの工程を経て、最後に焼成し作品は完成します。焼成は粘土と釉薬により時間や温度を調整しイメージした作品に仕上げます。窯の蓋を開ける時のドキドキ感は陶芸の醍醐味です。陶芸の感動と魅力を伝える作品創りを探究したいと思っています。

●佳作賞 工芸 佐藤 友保  
多くの人に、自分の作品を観てもらえる道展はとても魅力です。今回初めての佳作賞を受賞する事が出来、入選の時とは違う喜びです。受賞の日、会場へ行き会員の方に作品の総評を訪ねた時、自分の作った最初からの作品を覚えていてくれた事とても感動しました。道展で凄いと改めて思いました。そんな道展に受賞する事が出来うれしく思います。

●佳作賞 工芸 田中 栄子  
昨年から躍動感ある野ぶどうの表現を目指し、型染めとろうけつ染めを組み合わせました。しかし、地白と地染まりのバランスが難しく苦労しました。7月下旬に体調を崩し大変でしたが、何とか仕上げ直前に灰汁抜き作業し搬入できほっとしました。賞を頂きありがとうございます。これからも楽しみながら藍染めを続けたいと考えています。

●佳作賞 工芸 照井 道子  
藍の色には48もの名前があり、紫味のある深く暗い藍色は「青藍」。天然藍染めと絞り技法を基本に透けるオー

彫刻部門優秀賞・新会友  
菱野 亮子 算法



新人賞  
舞昇 澁谷 希李



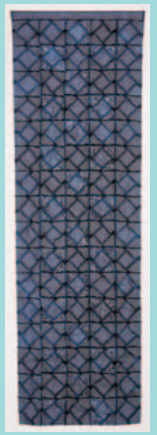
新人賞  
錯綜 小林 礼奈



佳作賞  
野ぶどうの輝きⅡ 田中 栄子



佳作賞  
青藍 照井 道子



佳作賞  
祈りの人 佐藤 友保



工芸部門優秀賞・新会友  
宮前 和希 時を超えて



新人賞 佐藤 廣仁  
かざぐるま

ガンジー素材を上下二枚重ねる事で浮かび上がるモアレ模様は平織りと思えない布の面白さを感じ立体的に仕上げました。賞を頂き身の引き締まる思いです。精進を重ね100回記念を目指したいと思います。ありがとうございます。

●新人賞 工芸 佐藤 廣仁  
新人賞をいただき、とても嬉しく思っております。会社を退職後陶芸を習い始め、講師の三好先生に色粘土の楽しみを教わり、練込の面白さにのめり込み成功と失敗を繰り返し、セラミックセンターの講師・先輩・仲間助けられながら、現在に至りました。これからも、練込作品に挑戦していきたいと考えております。

### 【第96回道展移動展のご案内】

- 第66回釧路移動展：2022年11月22日～27日  
釧路市立美術館（開催は終了致しました。）
- 第74回帯広移動展：2023年1月19日～24日  
帯広市民ギャラリー
- 第61回北見移動展：2023年3月23日～29日  
北網圏北見文化センター

### 【第14回道展U21について】

札幌市民ギャラリーの改修工事に伴い、今年度は開催いたしません。

### 【広報部からのお知らせ】

来年度から道展のホームページがリニューアルします。スマートフォン、タブレットでも対応となり、シンプルで見やすく、より道展の魅力が伝わるサイトになります。

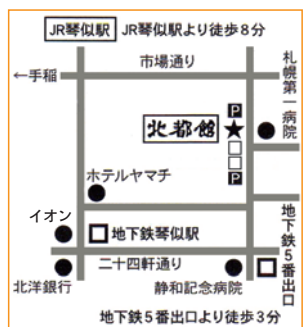
絵好きの集う店

カフェ **北都館** ギャラリー

札幌市西区琴似1条3丁目1-14 第一病院向い  
TEL 011-643-5051

営業時間 水・木・金 AM10:00～PM10:00  
火曜定休日 土・日・月 AM10:00～PM 7:00

メールアドレス hokutokan@sa3.gyao.ne.jp  
http://hokutokan.jimdo.com



サッカー日本代表の「サムライブルー」、なぜ青が基調なのか、実は不明である。前回のロシア大会で採用された日本の伝統色「勝色」(かちいろ)は、本来は「褐色」と表記された暗い紺色のこと。「かつ色」で縁起を担いだ鎌倉武士に愛好されるようになり、近代では旧日本軍の軍服、現代においてもスポーツチームのユニフォームに採用されている。

C83% M78% Y56% Y25%

現代の褐色(かつしょく)は茶系統

http://nakanishi-shuppan.co.jp



NAKANISHI PUBLISHING CO.,LTD.

since 1988

### 道展ニュース

No.150 [2022年12月23日発行]

発行 ■ 北海道美術協会  
編集 ■ 道展広報部  
URL ■ <http://www.doten.jp>  
発行 ■ 笠井真紀子(中西印刷株式会社)  
印刷 ■ 中西印刷株式会社

編集  
後記

市民ギャラリーの改修工事が始まりました。長年道展がお世話になっている建物の改修工事は私たちにとっても重要なことだと感じます。人と人とが作品を通じて出会い交流する場所を、この世の中だからこそ大切にしたいですね。

それでは来年もどうぞよろしく願い申し上げます。皆様にとってかけがえのない年でありますように。

(A.S.)